

2018年度(平成30年度) 特定課題研究費研究報告書

研究代表者	所属	一般科目	職	助教	氏名	宮田 航平
研究分担者	所属		職		氏名	
	所属		職		氏名	
	所属		職		氏名	
研究課題名	(和文)国語科教育の歴史からみた「宮沢賢治」 (英文) An Analysis of Miyazawa Kenji's Works in the Teaching of Japanese Literature ——A Historical Perspective					
研究種目	スタートアップ研究					
研究実績の概要						
<p>前年度の研究課題「国語科教育における児童文学——あまんきみこ作品を中心に」に引き続き、児童文学と国語科教育の領域横断的な研究の試みとして、今年度は国語科教育の歴史を精緻に見直すにあたって、児童文学作家の「宮沢賢治」に注目して研究を行った。</p> <p>宮沢賢治作品は、戦後直後から現在に至るまで、小学校から高専まで幅広く国語教科書に掲載されてきた。それらの教科書の調査・収集を行い、掲載作品のリストを作成することができた。</p> <p>また前年度から行ってきたあまんきみこ作品については、「児童出版メディア」という観点から発展的に研究を行い、日本児童文学学会の研究大会において研究発表を行うことができた。</p> <p>国語科教育の歴史についても、高等学校国語教科書に掲載されている「待ち伏せ」(ティム・オブライエン)の採録状況を整理し、時代ごとの傾向の抽出を行い、指導書で目指されている教育目標を分析した。その成果は、国語教育史学会の研究発表として広く世に問うことができた。</p> <p>これらの研究成果は、低学年の「国語」の授業だけでなく、高学年の「表象文化Ⅰ」や「課題研究」の教材改善にも役立てることができた。また2つのOPC講座(中学生向け・一般向け)によって、社会に広く還元することもできた。</p>						
研究発表(論文、著書、講演等)						
【論文】						
①「「読者」はどこにいるか」(『日本児童文学』小峰書店,2018年7月)						
②「〈3.11〉と児童文学」(児童文学評論研究会/編『児童文学・21世紀を読む』2018年8月)						
③「児童文学が語る「平成最後の夏」」(『日本児童文学』小峰書店,2018年11月)						
④「北沢楽天とは誰か——漫画・子ども・手塚治虫」(『信州大学附属図書館研究 臨時増刊第二号』2019年2月)他						
【学会・研究会発表】						
①「国語科教育は「戦争」をどう語るか」(国語教育史学会例会,早稲田大学,2018年7月)						
②「戦後児童出版メディアとあまんきみこ」(日本児童文学学会研究大会,文教大学,2018年11月)						
③「「ブックガイド」の先に見える風景」(児童文学評論研究会,2018年12月)他						
その他(教育活動・OPCへの貢献、特許等)						
①「中学生のための小論文講座」(OPC講座,全4回,2018年8月)、②「児童雑誌『赤い鳥』創刊100周年～大正・昭和期の「童話」を読む～」(OPC講座,全4回,2018年11-12月)、③「『赤い鳥』と童話の系譜」(豊島区立図書館展示協力,2018年6-7月)、④日本児童文学学会(運営委員)、⑤あまんきみこ研究会(会計・会務委員)、⑥三省堂国語教科書編集委員会(編集委員)						